

月刊

書字文化

～日本書字文化協会機関紙 No80～

令和2年（2020年）



目次

- ◇コラム・こころ（大平 恵理）・・・・・・・・・・・・・・・・・・2
- ◇書文協の今後の活動方針・・・・・・・・・・・・・・・・・・3
- ◇「美しい文字で心がやすらぐ書き込み式ペン字練習帳」紹介・・・4
- ◇第9回全国書写書道総合大会案内・・・・・・・・・・・・・・・・・・5

一般社団法人日本書字文化協会(書文協)

本部 〒164-0001 東京都中野区中野 2-11-6 丸由ビル 3階

電話 03-6304-8212 / FAX 03-6304-8213

メール info@syobunkyo.org

ホームページ <http://www.syobunkyo.org>

7/4 開設の多摩支部、多摩教室へは書文協本部経由で連絡を取ります

附属書写書道専修学院

本部中野教室 本部住所と同

多摩教室 東京都羽村市、多摩支部内

こ こ ろ

大平 恵理（書文協代表理事・会長）

いまこそ書写書道の学びを



先月号は、このコラムをお休みさせていただきました。日々打ち寄せる荒波に立ち向かうのが精一杯でした。まだまだ油断はできませんが、ようやく日常が戻りつつあります。書文協は、これからも防疫は完璧に行いながら、決して書写書道の学びは止めないように努力してまいります。皆様のご指導、ご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。

この非常事態に、嬉しかったことがあります。それは学校、職場さえ閉じられた自粛生活の中で、書写書道を学ぶことに意義を見出した、というお話をいくつもいただいたことです。本当の学びとは？ 何を学ぶことが大切か？ と問い直される中で、字を書く、言葉を書くことが「生きる力」を養うことにつながる、という意義に気付いていたのだと思います。また、筆やペン、鉛筆を持って紙に向かう、その時間に安息を見出し、ストレス解消になった、という方も多くいらっしゃいました。

もう一つ嬉しかったのは、何か活路を見出そうと行った携帯と電話を使った指導が好評で、一定の成果を上げたことです。作品を写メールで送ってもらい、それを基に先生から電話して色々注意して書き直していただくもので、私たちは“電話面談指導”と名付けていました。かなり“原始的”なオンライン指導でしたが、時間・場所を問わないバリアフリーの究極の個人指導として成果を上げることができました。「先生からの電話」も生徒さんがしゃっきりするのにつながったと思います。また、ご家庭の多大なご協力がなかったら実現することは出来なかったことです。生徒さん、ご家庭、指導者の三位一体の技が成せるもの、教育なんだなあ、と痛感しました。ご家庭の皆様、本当に有難うございました。全国の先生方もいろいろ工夫してオンライン指導をされたと伺っています。オンライン指導の充実には機材など環境の整備面の課題が多くありますが、コロナ禍終息後も書文協は、オンライン指導法を研究していきたいと思っています。

書文協では学校の休校の間、附属書写書道専修学院での対面指導は休んでいましたが、6月5日から再開いたしました。また、7月4日から東京都羽村市に書文協多摩支部を開設。同支部の多摩教室に専修学院青梅教室を吸収しました。青梅教室はこの礎となり、発展的に統合されたものです。青梅教室に通って下さった方々有難うございました。

検定、ライセンス試験、各種コンクールなど全国事業も、目配りをしっかりしながら継続していく方針を立てました。

最後に、こういう時だからこそ、という朝日新聞出版社からのオファーで「美しい文字で心がやすらぐ 書き込み式ペン字練習帳」を私の手本・監修で出版させていただきました。先生方、ぜひご活用ください。

書文協の今後の活動方針

平常化への道筋は、地域の実情によって異なります。各団体ともご遠慮なく書文協に問い合せ・相談の連絡をお寄せください。

「今後の基本方針・スケジュール」

月刊書字文化 5 月、6 月号でお知らせした内容と基本的に変わっていません。

- ① 全国検定・ライセンス試験、検定事前添削指導、特別段級認定試験などは通常通り実施します。
- ② 本部・各地講習会は基本的に当面開催しません。地域の実情により開催する場合があります。ご相談ください。
- ③ 今後もオンラインを活用します。作品写メールと電話指導を組み合わせによるもので、書文協本部は動画方式のシステムは使いません。
- ④ 第 9 回全国書写書道総合大会 詳しくは、月刊書字文化 6 月号（本号）掲載の総合大会実施要項を参照ください。
- ⑤ 上記総合大会の中央審査会は 10 月第 5 週（25—31 日）の間で調整し、開催します。
- ⑥ 優秀作品展示・表彰・交流会 開催するかどうかは検討中
- ⑦ 書文協創立 10 周年記念会 開催するかどうかは検討中
*詳細につきましては月刊書字文化 10 月号（9 月末ごろ刊行）で発表
- ⑧ 書文協附属書写書道専修学院は 6 月 5 日より、対面授業を再開しました。
- ⑨ 東京都羽村市に書文協多摩支部を 7 月 4 日から設置。同時に同支部に専修学院多摩教室を開設、青梅教室は多摩教室に統合しました。



予定が変更される場合があります。
事前にホームページのチェックをお願いします。



「美しい文字で心がやすらぐ

書き込み式ペン字練習帳」

～6月19日から全国で発売～

- ◆出版社 朝日新聞出版社
- ◆手本・監修 大平恵理（書文協会会長）
- ◆AB判 本文80ページ B5判の高さでA4判の幅。広げて使い易い厚さ。
- ◆価格 770円（本体+消費税）

教場の副読本に、生徒さんにお勧めを

心が落ち着くなど書写書道のメンタルな面に加えて、長い言葉を書く硬筆は、文字、言葉との触れ合いが多く、また、自学自習し易い学びです。この本は、非常事態下で是非手にしたい本として緊急出版されました。

前向きになれる言葉、時候のあいさつ、手紙文の慣用句など多くの言葉が美しいペン文字で書かれています。それだけでなく、止め・はね・払いなど書写書道の基本、筆圧のかけ方、姿勢などについても正しく身に付くように工夫されています。

書文協の学びは、各書塾での先生方のご指導を基本とします。新硬筆検定テキストの自学自習副読本として、教場・教室の生徒さんには是非お勧めください。



「色即是空・・・」般若心経のペン字写経にも挑戦

筆記用具は、硬筆でも年齢が上がるとともに使用者が増えるペン字としました。ペンで般若心経を写経するコーナーもあります。写経と言えば毛筆を連想しがちですが、ペン書き写経にも是非挑戦してください。

目次抜粋

- ▶ペン字練習に適した持ち方・書き方・座り方
- ▶前向きになれる言葉を書く
- ▶四季を感じる言葉を書く
- ▶ひらがな、カタカナ、漢字を美しく書くポイント
- ▶縦書き、横書きの練習
- ▶時候の挨拶（春夏秋冬）
- ▶手紙の用語練習

第9回全国書写書道総合大会ご案内

実施要項、課題解説など、詳しくは書文協ホームページにアップされました月刊書字文化6月号をご覧ください。

◆各コンクール実施日程

- ・2020年度ひらがな・かきかたコンクール（公募展）応募は2020年9月18日（金）必着
- ・全国学生書写書道展（席書の部）2020年9月19日（土）～10月18日（日）の間に実施。
参加申し込みは席書大会開催の14日前まで。
- ・2020年度全国学生書写書道展（公募の部）応募は2020年10月23日（金）必着
- ・2020年度全国硬筆コンクール（公募展） 応募は2020年10月23日（金）必着

（注）問い合わせを一状況に応じて開催の有無を含め、席書認定会場の条件などが変更される場合があります。最終決定は8月中旬に発表予定です。その前でも、どんなことでも結構ですので書文協にお問い合わせください。

◆参考手本発表・評価の観点発表予定

参考手本は7月上旬、ホームページで発表（ダウンロードして使用可）。評価の観点は7月下旬ホームページで発表。

◆印刷手本、応募用紙発売 ※金額は税抜き価格

印刷手本は7月上旬より発売。毛筆はA3判1枚97円、硬筆はB5判原寸大1枚37円。硬筆は共通清書用紙使用1枚12円（100枚以上は15%引き）。送料は希望者負担。申し込み用紙（ホームページの各種用紙ダウンロード欄から）を使用し、書文協本部に申し込んでください。

◆審査結果発表

- ・ひら・かきコンクールは2段階発表。本賞は10月末発送開始、特別賞・準特別賞は12月初旬発送
- ・学生展・硬筆コンクール 12月初旬、全員の審査結果表と賞状・副賞を同時に発送します。
- ・ホームページ上での上位優秀賞受賞者氏名・作品ネット展示は、11月下旬にアップ

◆優秀作品展示・表彰・交流会」

開催するかどうか検討中。

◆賞（予定含みます）、各コンクール共通

個別コンクール賞

特別賞＝文部科学大臣賞、名誉大賞（前回、大臣賞で今回大臣賞候補作品）、大賞（大臣賞に匹敵する作品）、審査委員会賞、書文協会長賞、推進機構理事長賞、小・中・高校長会賞、全書研会長賞、各主催・後援団体の賞、教育特別奨励賞

準特別賞＝優秀特選ベスト10 **本賞**＝特選、金賞、銀賞、銅賞

総合の部（ひらがな・かきかたコンクールを除く）

書字文化賞（グランプリは文部科学大臣賞）

全国硬筆コン＝硬筆・学生展＝毛筆ともに優秀な作品の提出者若干名に授与

◆出品料・参加費（1点当たり、消費税10%込み）、作品規定

個別コンクール名称	参加資格	部門	点数	席書参加費、及び公募出品料		用紙 (縦長使用)	署名
				団体	個人		
ひらがな・かきかたコンクール	年少～小3	公募	1点	年少～小3	550円	1650円	【幼児】 氏名。名前だけでもよい。 【小学生～中学生】 学年・氏名。学年は(例)小四、中二としてください。
全国硬筆コンクール	年少～一般	公募	書体が違えば中学生は2点まで。高校生以上は3点まで。小学生以下は1点	年少～中学生	550円	1,650円	
				高校生以上	880円		
全国学生書写書道展	年少～大学	席書	1点	年少～中学生	880円	1,870円	八ツ切
				高校生 大学生	1,100円		半切
		公募	用紙が違えば3点まで	年少～中学生	660円	1,650円	① 半紙 ② 八ツ切 ③ 半切 ④ 地域指定用紙
				高校生 大学生	880円		

(注意)

*出品料は前回と同様ですが、消費税込みの額が増えました。

*席書の部同様に公募の部も課題は指定課題のみで自由課題はありません。

◆園・学校特典

幼稚園・保育園、学校については出品・参加によって学校会員と認定され10%割り引かれます。また、参加児童生徒1人につき手本と硬筆共通清書用紙2枚は無料です。送料はご負担ください。



注意 ◆月刊6月号掲載の課題の学生展大学仮名、硬筆コン中学に1文字間違いがあり、今回の表記が正しいのでご注意ください。◆同6月号には課題表記の注意点として「ひらがな難易度表」「評価のポイント」の解説があります。是非お読みください。◆課題は、「ひらがな・かきかたコンクール」を除き過去の大会の好評だった課題から選抜しました。

課題

<ひらがな・かきかたコンクール>

年少・年中	こい
年 長	つくし
小 1	とりのこえ
小 2	きれいなはなをみる。
小 3	よるのそらに、まんげつがあかるい。

□ 清書用紙は、年少・年中・年長は用紙①、小1、小2年生は用紙②、小3は用紙③

<全国学生書写書道展>

年少・年中	く
年 長	つる
小 1	いろり
小 2	ふみきる
小 3	米づくり
小 4	生け花
小 5	里山の秋
小 6	育む友情
中 1	春夏秋冬
中 2	中央突破
中 3	百代の過客
高校・漢字	山青花欲然
高校・仮名	まり投げて 見たき広場や 春の草
大学・漢字	花間宿鳥振朝露 柳外帰牛帯夕陽
大学・仮名	秋の田の かりほの庵の 苦をあらみ わが衣手は 露にぬれつつ

□ 席書は中学生までは八ツ切、高校以上は半切

□ 公募は半紙、八ツ切、半切、地域指定用紙

◆書体：幼・小学生＝楷書、中学＝楷書・行書、高校・大学＝自由

<硬筆コンクール>

- 年少・中 さくら
- 年 長 もちつき
- 小 1 おはぎをたくさんたべました。
- 小 2 だいこくさまにたすけられた白うさぎ
- 小 3 おうえん合せんを声がかれるまでしました。
- 小 4 うちあぐる ボールは高く 雲に入りて
また落ち来る 人の手の中に
- 小 5 日本は手書き文字を大事にします。
文字で正しく、分かりやすく伝える書写、
文字の形に注目した書道。共に大切です。
- 小 6 小諸なる 古城のほとり 雲白く 遊子悲しむ
緑なす はこべはもえず 若草も しくによしなし
- 中学生 勉強と部活の両立が難しい。そこに書写書道の学びをどう入れるか。
悩んだ末に私が出した結論は、全力を尽くして、結果を受け入れる。
それが成長につながる。
- 高校生以上 いつれの御時にか、女御更衣あまた候ひたまひける中に、
いとやむごとなき際にはあらぬが、優れて時めきたまふありけり。
源氏物語「桐壺」より

- 清書用紙は、年少・中、年長は用紙①、小1,小2年は用紙②、小3,小4年は用紙③、
小5,小6年は用紙④、中学は用紙⑤、高校以上は用紙⑥

- ◆書体：幼・小学生＝楷書、中学生＝楷書・行書で2点まで出品可。

高校生以上＝楷書・行書・草書で3点まで出品可。

課題解説（詳細は月刊6月号参照）

<学生書写書道展>

- ◆中3

百代の過客は、盛唐の杜甫と並び称せられる同時代の詩人・李白の「それ天地は万物の
逆旅にして光陰は百代の過客（かかく）なり」という句による

◆高校・漢字

山青花欲然

唐代の詩人。杜甫（とほ）の「絶句」の一節です。

◆高校・仮名

まり投げて 見たき広場や 春の草

明治の俳人・歌人、正岡子規（全国硬筆コンクールの小4参照）の作。

◆大学・漢字

花間宿鳥振朝露 柳外帰牛帯夕陽

夏目漱石の漢詩です。花間の宿鳥 朝露を振るい 柳外の帰牛 夕陽を帯ぶ

（昨夜から花かげに宿っていた鳥が、朝露をふるい落として飛び立つ。柳の向こうを夕日を背に受けた牛が帰っていく。のどかな農村の朝夕の原風景です。

<全国硬筆コンクール>

◆小4

正岡子規（学生展の高校・仮名も）は野球を愛した。「歌よみに与ふる書」などで短歌革新に努めた。創刊した俳句雑誌「ホトトギス」は有名。

◆小6

小諸なる 古城のほとり 雲白く遊子悲しむ 緑なす はこべはもえず
若草も しくによしなし

明治から昭和前期ま活躍した詩人、島崎藤村の「千曲川旅情の歌」の冒頭の一節。ファンは多い。「5・7、5・7・・・」の5・7調は、日本を代表する韻律（いんりつ、言葉の調子）。小諸城は長野県小諸市にある。「遊子」は、旅人の意味。ここでは島崎藤村本人。「はこべ」は、ナデシコ科ハコベ属の植物。「淡雪」とは、春先のうっすらと積もって消えやすい雪のこと。

◆高校以上

源氏物語「桐壺」の冒頭です。口語訳は以下の通り

どの天皇の時代であったでしょうか、女御や更衣がたくさん（天皇に）お仕え申し上げていらっしゃった中に、それほど高貴な身分ではない方で、際だって帝のご寵愛を受けていらっしゃる方がいました。

